

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172901183		
法人名	医療法人社団 旭川圭泉会病院		
事業所名	グループホームやすらぎ(やすらぎユニット)		
所在地	北海道旭川市東旭川町上兵村32-2		
自己評価作成日	平成29年9月27日	評価結果市町村受理日	平成29年11月24日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kan=true&JigyosyoCd=0172901183-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成29年11月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・利用者への対応は、理念に基づくよう職員1人1人が心掛け接している。 ・身体拘束廃止委員会が中心となり、他者評価を実施し、自らが振り返る機会を設けている。 ・介護安全委員会、感染委員会、身体拘束廃止委員会はそれぞれ各施設合同で行い、情報の共有と全職員への周知を徹底して行なっている。 ・毎日、午前は身体を動かすラジオ体操やストレッチ体操等を行ない、午後は利用者全員が一緒に行なえる様なレクリエーションを実施している。 ・毎月の行事は季節に応じたものをメインに、その他デリバリーラーメンや大正琴の演奏を鑑賞したり、ホーム内でも楽しめる行事を各月の担当職員が計画を立てている。 ・天気の良い日には外に散歩へ行ったり、テラスでの茶話会、利用者とスタッフが協力しておやつを作る等、利用者同士の関係も円滑にいくよう支援し、職員も一緒に生活しているという事を忘れずに過ごしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>母体医療法人を中核として、総合福祉施設の中の平成15年3月開設、コンクリートブロック造り平屋建て2ユニット(定員:18名)のグループホームです。</p> <p>中学校生徒の体験学習や医師会看護専門学校生の実習の受け入れ、琴や吹奏楽、バンド演奏等の地域のボランティアの協力を得た交流の機会、やすらぎ夏祭りを通じた地域交流会の開催では、町内の人々や家族等に参加を呼びかけるなど事業所の持つ機能を地域に還元すると共に地域の人々との連携、認知症に対する啓発や広報に取り組んでいる。</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、ラジオ体操やストレッチ体操など日常生活の中での機能訓練やデリバリーラーメン、テラスでの茶話会、紅葉や花フェスタ見物、お花見や花神楽温泉の入浴など戸外に出かけたり、気分転換等への支援をしている。</p>

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全スタッフは理念を携帯し、毎朝申し送り時に唱和を行ない、施設内に理念を掲示している。	理念を見やすい場所に掲示し、毎朝申し送り時に唱和すると共にその理念を携帯し、理念達成の為の具体的な目標を掲げて職員間で共有して実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年恒例となっている夏祭りでは地域の町内の方が数人手伝いに来てくださっている。町内の方等へのやすらぎ新聞の配布も行なっている。	中学生生徒の体験学習や医師会看護専門学校生の実習の受け入れ、やすらぎ夏祭りを通じた地域交流会を開催して地域の人々との協力・連携や認知症に対する啓発や広報に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	医師会の看護学生や中学生の体験学習の受け入れや、年4回のやすらぎ新聞の発行・配布をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括支援センターの職員や介護高齢課の方にも参加して頂き2ヶ月に一度開催している。ご家族の方の参加や時には入居者さんの参加もあり、意見交換を行なっている。	運営推進会議を定期的に開催して、事故防止や感染症対策への取り組み状況、地域との連携など具体的内容について話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には介護高齢課の方にも参加して頂き情報交換の場を設けている。又、GH内での事故等の報告も速やかに行なっている。	市担当者とは、日常業務を通じて事業所の取り組み状況や報告、情報交換等で協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を中心に、高齢者虐待防止法の勉強会や研修に参加し、職員に対してのアンケートを実施している。個々に自らを振り返る機会を定期的につけている。	身体拘束廃止や高齢者虐待防止について身体拘束廃止委員会や法人内研修会開催等で指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止委員会を中心に、穴埋め問題やアンケートの実施をしている。また、他者評価を行ない内からも外からも虐待の芽を摘めるよう努力している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度や権利擁護制度についての勉強会や研修に積極的に参加し、研修に参加したスタッフじゃ全スタッフに周知できるようにフィードバックを行なっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	満足度アンケートを実施。(入居者さん・ご家族)不安や不満、疑問点などを確認し対応できるようにしている。契約時は丁寧に説明し、双方の同意を得られるようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各ユニットの玄関に意見箱を設置。苦情申し立ての連絡先を掲示し、意見を反映し、迅速な改善に努めている。	家族等が意見や苦情等を言い表せるように苦情受付の意見箱を設置し、そこでの意見等を運営に反映できるように努めている。また、法人独自の利用者・家族アンケートを実施して苦情等を言い表す機会を設けている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談や半年に一度の自己評価を実施、改善・反映に努めている。ミーティングを毎月開催し意見交換を行なっている。随時面談を実施している。	職員の段階に応じた研修を定期的に関催しており、離職率は低く、安定したケアサービスを提供している。また、個人面談等で職員の意見や提案を聞く機会を設け、そこでの意見等を運営に反映できるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談や半年に一度の自己評価を実施、改善・反映に努めている。ミーティングを毎月開催し意見交換を行なっている。随時面談を実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	様々な研修や講習会の案内があり、各自確認し、率先して参加希望を出すことができている。自己啓発する気持ちを常に忘れず取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	同業者の有志で集っている勉強会に参加し、情報交換を行なっている。法人内の3ヶ所の介護支援専門員が意見交換を行なっている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族や本人から聞き取りを行ない、センター方式シートを活用し生活歴等把握に努めている。又、本人が安心して暮らせるための関係作りを行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安や要望を解決する為より多くの面談を行ない、安心して暮らせるよう十分な説明を行なっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始前にホームで出来ること、出来ない事を明確にし、必要であれば他のサービスの紹介もしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の大先輩という敬意を持ちながら共に暮らすという気持ちで日常生活を過ごしている。植物の水やりや裁縫、おやつ作り等一緒に行ない、良い関係が築けるよう努力している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時近況報告を随時行ない、今後の注意点や方法をご家族と共に考え良いケアに繋げている。ホームでの行事にも積極的に参加頂きお互い協力し合いながら支えあっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔からの関係が途切れることが無いよう、なじみの方との面会や電話連絡、年賀状のやりとり等、ご家族にも協力依頼しながら行なっている。	日常の散歩やテラスでの茶話会の開催、琴や吹奏楽等のボランティアとの交流、体験学習の受け入れで中学生との交流等で馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	他者とのトラブルや孤立しないようスタッフ間でカンファレンスを行ない、個々の関係性をしっかり把握し 必要時のみ介入している。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの終了した方にも時折面会に行ったり、ご家族に近況をお聞きしたりし、関係を密にとる様に努力している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の会話の中や表情などから、想いや希望をくみ取り実行出来る様努めている。できないことに関しては本人にしっかりと説明を行なっている。	一人ひとりの思いや暮らし方の希望や意向の把握にセンター方式を活用し、職員間で情報を共有して本人本位に検討している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から馴染みの暮らし方や物、生活歴を詳しくお聞きし、把握に努めている。センター方式シートに記入し、サービスに活用できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活リズムを把握し、それぞれの暮らしが出来るよう随時ケアカンファレンスを開き、身体・精神面の変化に迅速に対応出来るようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング前には本人や家族から意向・要望をお聞きし、スタッフ間でも情報の共有を心掛け、本人がより良い生活が出来るような介護計画を作成している。	本人、家族の意向や要望、医師・常勤看護師からの指導や助言、モニタリング等を通じて職員の意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。また、状態変化時には都度見直しを実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	プランに沿った記録の記載、アセスメント・ショートカンファな適時行い内容も記録し、全スタッフに周知している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の状態に合わせた通院介助・早期退院に向け支援を行なっている。リハビリの必要な方はOT・PT等とも情報交換し、助言、リハビリの利用で様々な視点から問題点を見出して解決に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	歯科往診や消防による消火訓練など定期的に連絡し利用している。訪問理容は毎月、デリバリーラーメンは年2回着て頂き豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の診察を受け入れるようにしたり、必要時は通院介助や送迎を行なっている。主治医との意見交換も密に取っている。	往診や通院への支援、日常の健康管理等で適切な医療を受けられるように支援している。また、受診は、本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師であり、24時間連絡が取れるようになっている。随時相談をしたりし、指示を受けられる様な働き方である。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院されている方が居ればスタッフが面会に行き、状態等、看護師に聞いたり、情報交換を行っている。また、サマリーを作成し、情報を共有出来る様にしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	終末期の方のご家族には早期の段階で面談を行ない、意思の確認をしている。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族と話し合い、事業所ができることを十分に説明しながら、指針を職員間で共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルがあり、常にスタッフが見えるところに保管されている。スタッフが自ら勉強会を行ない、実践を入れるなど工夫したものになっている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に数回、消防署による消防訓練・消火訓練を開催している。 施設長が想定した火災等の避難方法など、全スタッフが参加出来るよう実施頻度を多くしている。	緊急時に速やかに対応できるように年4回、自衛消防隊を組織して火災避難訓練や消防・消火訓練を実施している。また、救急救命訓練やAEDの使用法の講習会に参加している。	

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人としての尊厳を大切にすることを理解し、声掛けの仕方やスピーチロックには十分注意している。 また、自己評価や他者評価で自らのケアを振り返る機会を設けている。	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねる言葉かけや対応がないように法人内で接遇マナーやスピーチロックに関する研修会を開催している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者さんの想いを理解出来るよう、日常生活の会話や表情からくみ取り、自らが選択したことなど実現出来るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	スタッフの業務に合わすことが無いよう、個々のペースに合った食事・排泄・入浴等、それぞれに合ったケアを心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月、訪問理美容を利用し、入居者さんの希望もお聞きし、好きな髪形にしている。 衣類の選択も自ら行ない、自己決定の困難な方は季節に応じた服装・好みの色等考慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は機会がない為、毎日のおやつでの調理や準備を一緒に行なうようにしている。食器洗いも、申し出があった時には出来る範囲内でスタッフと一緒にこなしている。	一人ひとりの好みや力を活かしながら、職員と一緒におやつでの調理や準備をしている。また、ラーメン店の協力を得てデリバリー（出張出前）や焼肉レクの開催など行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせた水分量・食事摂取量を決め、形状も工夫している。また、捕食や本人用のおやつ等の購入・提供も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の状態に応じた歯ブラシ・スポンジブラシの使用、また、定期的な歯科往診も受けられている。毎食後の口腔ケアの介助や声掛けを行ない、口腔状態の変化や義歯の状態の変化にも注意している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄サイン・サイクルを把握し、トイレで排泄出来る方には出来る限りして頂き、失禁を減らすことが出来る様に努めている。	一人ひとりの力や排泄パターンを排泄チェック表で把握して、声掛けや誘導等の工夫でトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時の牛乳・乳酸飲料で排便を促し、食物繊維入りのファイバーを利用し、出来る限り下剤に頼らないよう工夫している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に沿った支援をしている	ひとりひとりのペースに合わせて好きな時間にゆっくりと入浴を楽しんで頂けるよう配慮している。拒否される方には、スタッフが交代で声掛けに行ったり、時間をずらしたり工夫している。	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように柔軟な支援をしている。また、個々に沿った柔軟な入浴支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中のレクや体操など、ほどよい活動量で夜間安眠できるよう工夫している。天気の良い日には外気浴や散歩、ドライブで陽にあたる機会を多く取っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬マニュアル手順に沿った服薬方法を徹底して行っている。錠剤の困難な方には粉碎してもらったりなど、適時依頼している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ・食器洗い・お盆拭き等、個々に合わせた役割を無理の無いように行なっている。 歌の会や脳トレを行ない、気分転換ができるようなレクを毎日行なっている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望になるべく合わせながら、買い物・外出・ドライブレクなど外へ出る機会を多く取り、家族の協力も得ながら、自宅への外出も出ている。	一人ひとりのその日の希望に沿って、散歩や地域のお祭り見物、地域交流会参加など戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも紅葉や花フェスタ見物、お花見や花神楽温泉の入浴など出かけられるように支援をしている。	今後は、さらに一人ひとりの希望に添えるよう、勤務調整や時間調整を行い、個別外出の回数を増やしていくことを検討しているため、その実践に期待します。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来る方には、外出の際に自ら支払をして頂く機会を取っている。 自らのおこづかいの中から親族へのお年玉やお祝いの額を決定して頂き、自らの手で渡して頂いたりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望時にはなるべく対応出来るようにしているが、出来ない時には時間をずらしてかけたり、出来る限り希望に沿った対応をしている。 手紙の投函も代わりに行なっている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室には馴染みのソファやテーブル等を置き、配置を考えたりしている。 季節に合った掲示物、温度調節もこまめに行なっている。	利用者にとって気になる臭いや音の大きさ光の強さは感じられない。また、共用空間には、季節毎の飾りつけや行事参加の写真の掲示などで生活感や季節感を採り入れて、居心地良く過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールのソファにてTVや新聞等ゆっくりと楽しんで頂き、特に決まった位置は設定せずに好きな所に座って頂いている。 気の合う入居者さんとのんびりした1日が過ごせる様配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご家族の写真や手作りの人形等、本人馴染みの物が自由に置いてあり、いつでも見れるところにある。 ご家族の事をいつでも思い出せるよう飾っている。	居室には、家族と相談しながら使い慣れた家具や馴染みの品々が持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々に応じたベッドの高さ、配置、マットの使用方法など、入居者さんに合わせている。 ホールや畳の小上がり等でスタッフ一緒に洗濯物たたみを行なえる事ができるスペースがある。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172901183		
法人名	医療法人社団 旭川圭泉会病院		
事業所名	グループホームやすらぎ(こもれびユニット)		
所在地	北海道旭川市東旭川町上兵村32-2		
自己評価作成日	平成29年9月25日	評価結果市町村受理日	平成29年11月24日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=0172901183-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジエント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1番6号 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成29年11月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・利用者の対応は理念を元に介護を提供している。利用者の状態など些細な変化などは、月に一度ユニットミーティングで話し合いを行い介護に生かしている。
 ・個々の状態に合わせた自助具を使用することで自発性を大切にし、一方的な介護ではなく一人一人が出来ることを行い、毎日の生活に達成感を感じてもらえるよう取り組んでいます。
 ・毎日午前中は体操を中心に行い、午後からはみんなで楽しめるレクリエーションを行なっている。特に、夏には外出をメインに考え、冬には施設内で楽しめるようにしている。毎月、行事担当を決めて、季節ごとの行事をスタッフ協力し行なっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	<input type="radio"/>	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	<input type="radio"/>	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	やすらぎ理念の作成し、毎朝申し送り前に理念を唱和している。両ユニット玄関に理念を掲示している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りや敬老会に参加している。施設の祭りには町内の方が参加や手伝いを行って頂き、交流を行なっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	医師会の看護学生と地域の中学生の体験学習の受け入れを行なっている。グループホーム新聞の発行も行なっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度定期的にご家族、行政の方、地域の方に参加して頂き、意見交換をしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村が主催している研修会に参加している。毎年、外部評価を受け市町村に送付し公開している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会、研修会を通して身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会、研修会を通し防止に努めている。両ユニット玄関に意見箱の設置も行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域包括やケースワーカーと連絡を取り、必要な方への成年後見人制度を活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には書面を参照しながら説明を行い、一つ一つ確認して納得・理解して頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、意見箱を2ヶ所設置し意見を反映させている。満足度アンケートをご家族に行なっている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見箱、ミーティングを通し職員と管理者の意見交換する場を設け反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年間に2回は個人面談を行うようになっている。初年度には年間目標を各自で立てやりがいや自己研鑽が出来るように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	様々な研修の案内等を掲示し研修会の参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	研修会や講習会等で意見交換、情報の共有に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時オリエンテーションを行い、不明な点や不安なことを傾聴しご本人が安心して頂ける様思いをくみ取るよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	随時相談にのり、信頼関係を持てるようにしている。質問には的確に答え、不安をそのままにしないように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設での生活が適しているのか本人、家族、医師などと話し合っている。PTやフレアス等他のサービス利用の助言も行なっている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的なケアではなく、協力しながら生活ができる施設作りを目指している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設での行事がある時は事前に家族に送付し伝えている。アルバムを各ユニットに置き面会に来られた時は見て頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔からの人間関係が保てるよう年賀状や電話などの支援を行なっている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の人間関係を把握し、孤立する事がないように支援している。毎日のレクリエーション、外出等を通し利用者同士の交流、関りを増やし支え合える様な支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後も行事の案内を伝えたり、面会を行なっている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様に満足度アンケートを実施している。希望等を把握し出来る限り叶えられるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や生活環境等、ご本人や家族から聞きセンター方式シートを活用して出来る限りご本人らしい生活に近づけるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人の生活リズム、生活習慣を把握して変化が見られた時は、話し合いを行なっている。定期カンファレンスも行なっている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護支援専門員の監視の元、入居者の現状に沿った課題、目標を見出しケアカンファレンスを行い情報交換、検討し計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間シートの活用しアセスメントを行なっている。ショートカンファ等を通して見直しを行なっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の状態に合わせ、通院介助を行なっている。PTやOT等の支援も依頼して行なっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問歯科診療やデリバリーラーメン、訪問美容室などの支援を行なっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々のかかりつけ医、病院の受診を行い適切な医療を受けられる様支援している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師とは24時間連絡が取れる体制になっており、相談・報告がすぐに行えるようになっていいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先への面会を行い、状態の確認、把握に努め、いつでも受け入れが出来る様に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方については、家族とスタッフ間で意見交換出来る様にしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生法の研修の参加、緊急時のマニュアルの作成を行い、実践力を身につけている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	自営消防訓練、年2回の避難訓練、消防との連携を行い体制を整えている。		

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報書類の破棄はシュレッターにかけ慎重に行なっている。敬うきもちを忘れず声掛け対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の生活の中でコミュニケーションを図る事でご本人の思いをくみ取り、潜在能力を見極めながら自己決定を出来る様に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	職員の都合ではなく個々に合わせた対応をしている。しかし、職員の都合で流れ作業の様になっている事がある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節ごとの衣類に注意し服屋さんに来て頂き希望された衣類の購入をして頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様のADLに合わせお盆拭きやテーブル拭き等職員と一緒にこなして頂いている。利用者様に応じた食事形態の提供を行なっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	24時間シートを活用し1日の水分量の把握している。ペースト食、エンシュア等の提供を行なっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けや介助にて行なっている。口腔洗浄剤や舌ブラシ、スポンジ等個々に合わせて行なっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握、共有し誘導を行なっている。24時間シートを使用し解りやすくなっている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時に牛乳やヤクルトを提供し排便の促進を促している。レクリエーションで適度な運動や体操を取り入れている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	本煮の希望に合わせて行い、拒否があった時は時間を空けて声掛けを行なっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人1人の睡眠状態、パターンを把握し、寝れない時には飲み物の提供を行なっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋の確認がいつでも出来る様になっている。変更時には副作用、症状の変化に注意して観察、記録を残している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日異なったレクリエーションを行い、個々が活躍できる場面を作っている。お手伝いをして頂いた時は感謝の気持ちを伝えている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物の希望があれば可能な限り一緒に出かけている。グループ外出が出来る支援も行なっている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望時はおやつや飲み物の購入を行える様にしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙は希望時その都度投函している。電話は家族に確認し可能なかぎり行なっている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	時間に合わせたテレビの音量や施設内の明るさを調整している。季節に合わせた創作物の展示や家庭的な雰囲気作りを心掛けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様同士がコミュニケーションをとる事が出来る場所、テラスにベンチを設置し一人になれる居場所の工夫を行なっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	1人1人の好みの物や慣れ親しんだ物等を自由に持ち込み、居心地の良い暮らしの支援を行なっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーで手すりの設置もされている。ベッドの高さ1人1人に合わせた高さで調節されており、安全で自立した生活が送れるように努めている。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム やすらぎ

作成日: 平成 29年 11月 20日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組内容	目標達成に要する期間
1	37 38	利用者の希望の表出、自己決定が満足とは言えない	<ul style="list-style-type: none"> ・関わりを多く持ち、信頼関係を構築し、利用者が希望を表出できるよう努める ・利用者の希望に応えられるよう職員間で検討し実現する 	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の会話の中から希望要望を把握していく ・満足度アンケートを行い、要望を取り入れる 	12ヶ月
2	49	1人1人に合わせた外出が不十分である	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の希望に添い、個別の外出をする回数が増える 	<ul style="list-style-type: none"> ・本人の希望に添えるよう、勤務調整や時間調整を行い、個別外出の回数を増やす 	12ヶ月
3	14	他職種や他施設職員との関わりが少ない	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員が外部研修に年1回は参加し、情報交換が出来るようにする ・研修後のフィードバックで職員間にも情報共有を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修案内を積極的に発信する ・研修に参加した場合は、積極的に他職種や他施設職員と交流を図り、情報交換を行なう ・情報交換をした内容はミーティングで職員に周知し、より良いサービスの提供が出来るようにする 	12ヶ月
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入してください。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加してください。